

3年生学年だより

大阪市立築港中学校
46期生 学年だより
2024, 8, 28
第14号

8・6平和学習

1, 2年生に伝えた私たちの学んだこと

「修学旅行でヒロシマを訪れて」

今年の8,6平和学習で、私たち3年生はこれまでの平和学習で学んだこと、そして広島を実際に訪れ感じ、考えたことを1,2年生に伝えるための発表に取り組みました。5つのグループに分かれ、スライドや原稿を作り、発表の練習を重ねました。今回の取り組みを通して、学びを深めることができ、どのグループも良い発表ができたと思います。1,2年生の感想は、また後に紹介しますが、「話を聞きながら、写真を見るととても悲しくなりました。」「原爆の恐ろしさを知りました。」「今日学んだ内容を今後に伝えたいと思いました。」とあり、伝えたかったことがしっかりと受け取ってもらえていると感じました。私たちができることは「学んだことを忘れない、伝えていくことだ」と考え、今回がその大きな一歩となりました。



1, 原爆の仕組みとその被害

2, おりづる 禎子さんと原爆の子の像のおはなし



3, 平和記念公園と鎮魂セレモニー

4, 私たちが聞いた語り部さんの話

5, 平和記念資料館で見たもの

～3年生の感想～

千羽鶴に寄せて



たくさんの犠牲者が出た原爆はもうどこの国にも使ってほしくないと思った。平和を祈るために世界からたくさんの千羽鶴が送られてきていることはすごいと思った。その活動は永遠に終わってほしくないと思った。

禎子さんが千羽鶴を平和のためにたくさん折ったおかげで、世界中の人が記念公園を訪れて、千羽鶴を奉納していることはとても良いことだと思いました。

裏に続く

平和記念資料館には、亡くなった人たちの服や弁当箱、三輪車や薬局の金庫があり、急に大切な人を失う悲しみをとても感じました

私は胸が苦しくなりました。もう二度と戦争はしてはいけないと感じると同時に、戦争中に亡くなった人たちに安らかに眠ってほしいと感じました。

亡くなった人のことを思いながら黙とうをすると、なぜ戦争をする意味があるのか気になった。(語り部さんの話から、被爆した)中学生の少年が材木のように積まれていたことがわかった。ネットで調べるより、語り部さんのリアルな話を聞いたほうが(被爆の実態が)わかりやすかった。

大切な人を奪う戦争・原爆

亡くなった一人ひとりの楽しい人生や家族、友達との思い出を作っていくはずだった未来が一瞬にして奪われ、二度と戦争をしてはいけないし、今の平和をずっと続けられると良いなと思いました。



私の願い・私はこうありたい

自分たちは79年前の広島で何があったか、何が起こったかを見たわけではなく、人から聞いた話を知っているだけなので原爆を実際に体験した人とは戦争に対する意識に差があるのかもしれない。G7の広島サミットに参加していた国の代表者たちもおそらく一人も戦争を体験してきた人はいない。だからこそ平和に対する意識がうすれ、また戦争が起こっては大変だ。世界中の政治家、権力者の人々には 一度でもいいから平和資料館に行ってほしい。

原爆は現代にも過去にも、とてつもない影響を及ぼしていて、私たちはその被害を実感しにくいけど、当時に生きていた方々の話を聞いたり被害を受けた物を見ることで、多くの人々に語り継いでいかなければならないと感じた。

戦争とはいかに残酷で苦しく、辛いものだと改めて思いました。これからの社会、戦争のない、明るい未来であることを願って、今回の発表を忘れずにいたいと思いました。

戦争を実際に体験した人がどんどん減っていく中、自分たちがほかの人に伝えてもあまりよくわからないかもしれないが、その小さな一言で、それを聞いた人がまたそのことを話すようになっていったらいいなと思いました。

原爆は健康や日常を一瞬に、またじわじわと壊し苦しませ、亡くなっていく人の生き残った人は悲しさを背負って生きていくこととなると考えました。でも(知る原爆には)そんな人に自信を与えるように、幹をえぐられたアオギリがまた芽吹いたりして生きる強さを表すかのように立っていると書かれていて、生きている今を大切にしていきたいと思いました。